

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500562		
法人名	有限会社 あすか		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	大阪府南河内郡河南町大宝2丁目29-6		
自己評価作成日	平成28年9月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季を感じてもらえる様に旬の食材を取り入れバランスの摂れた料理を食べて頂いています。 ・毎月季節に応じたイラストの入った手作りカレンダーを皆様と作り、お部屋に貼らせて頂いています。 ・書道や絵など特技を生かして頂ける様にしています。 ・1人1人に合わせ、お散歩や足の運動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は3年前に閑静な住宅街に新築し、移転している。自治会にも加入し、地域住民との交流が深まりつつある。運営者は長年にわたり、看護師としてキャリアを積み重ね、事業所を開設以来(13年経過)、一貫して地域の認知症の方々が笑顔で安心して暮らされ続けるように、重度になっても医療の知識を活かした支援をし、利用者・家族から信頼を得ている。職員皆で献立を作り、管理者自らが旬の食材の買い出しを行い、朝・昼・夕食全て職員が交代で調理し、利用者にとって食事が大きな楽しみとなっている。日常的に天気の良い日は地域の散歩や玄関前での日光浴を行い、雨の日も施設内を「歩く」ことで移動能力を確保し、認知症緩和や良好な睡眠につなげ、「立つ」ことによってもたらされる人間の尊厳を大切に支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の見える所に貼り、職員1人1人が意識して見える様にしている。	1、地域の方々との「交流」 2、「笑顔」「真心」「楽しく」 3、散歩や植木(花)などを「育てる楽しみ」という事業所独自の理念を掲げ、玄関に掲示し、職員の共有をはかり、日々、散歩や菜園作業を行うなど実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町の行事に出来るだけ参加して地域の方々と交流している。	移転前より地域住民の反対等もあったが、直前に自治会への加入も図り、日々の散歩時を利用した地域住民への挨拶を大切にしている。文化祭に利用者の手作り作品を展示したり、地域の祭り等に参加して、地域住民と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のパンフレットを地域の方々に配り、住宅の入り口交差点に看板を設置し、気軽に相談や見学をして頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーから意見をもらった事は、ヘルパー会議で話し合い、活かしている。	家族・地域包括支援センター・行政・介護相談員等に参加を呼びかけ、前期は年6回開催している。以前から介護相談員以外の参加が少なかったが自治会に加入できて、地域住民の代表や家族及び地域包括支援センターの参加につながられた。メンバーの充実を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは毎月実情等を伝えるなど情報交換を行い、定期的にある地域ケア担当者会議には積極的に参加している。	河南町の担当者とは分からない事があれば電話で問い合わせたり、役場に出向き、事業所の状況を報告している。町に1カ所ある地域包括支援センターが開催する地域ケア会議に参加し、情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開けていて地域の方々や家族様が入っても入って来られる様に取り組んでいる。	原則、身体拘束は行わない事を明示し、身体拘束ゼロの手引から抜粋したマニュアルを整備し、職員の共有を図っている。日中、玄関は施錠せず、開放し、見守りを大切に支援している。	事業所内で年間研修計画を作成し、年1回は身体拘束に関する勉強会を行い、抑制につながる言葉等も含め、皆で話し合い、問題意識をくり返し共有することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、月に1度のヘルパー会議の時に虐待についての話し合いの場をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、必要と考えられる利用者がそれらを活用出来るよう話し合い、関係機関への橋渡し等をしていくことが必要です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書に基づいて説明し、不安や疑問がないかを確認し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは常にコミュニケーションを取ることを職員一同心がけており、ご家族様が面会に来られた時など意見、要望などの話し合いの場をもっている。	頻繁に来訪する家族もいるが毎月の支払を家族に持参してもらうように努め、面会時には意見や要望を聞くようにしている。事務長はメールでイベント時の写真等も送り、家族との会話も図っている。利用者にも日々、寄り添い、会話から要望等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議などで職員の意見や提案を聞き反映している。	毎月、職員会議を開催し、職員の意見等を聞くようにしている。職員からコミュニケーションを図る機会を持ちたいとの要望に対し、食事会の実施や日帰り旅を実施し、運営に活かしている。職員は気軽に意見を言い易い環境を基幹職員は配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人が積極的に研修へ参加して、毎月の会議の中で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の河南町太子町地域ケア担当者会議に参加して同業者と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者さんと常にコミュニケーションを取り本人が安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方々の不安な事や要望などに耳を傾け良い関係作りが出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様等の状態と要望を重視した様で他のサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場に立って本人の思いや要望に答えながら一緒にレクリエーションをして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が不安になり悩んでいる時、職員は話を聞いていますがご家族も一緒になりご本人の思いを聞き、みんなで話し合う様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの物を持って来て頂いたり知人などの面会を行っている。	以前に住まいしていた近隣の知人等が訪門されている。実家に定期的に戻ったり、家族との外食や喫茶店に出掛けるなど、馴染みの場所支援を行っている。事業所は馴染みの関係が出来るだけ途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人が孤立にならない様にみんなでトランプ、パズル、毎月のカレンダー作りなど支え合い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に近所でご家族様と会う事もあり、コミュニケーションをとっているため、話しやすい関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん1人1人を良く観察し、その方が今まで生活されてきた環境をしっかりと把握し、その方の思いに出来る限り寄り添った生活が出来る様に配慮している。	入所時のアセスメントで過去の生活歴等を把握し、職員は共有している。入所後も利用者に寄り添ったり、家族との会話から、繰り返し新たな思いや暮らし方の希望等を把握し、出来るだけその思いに添った支援(温泉利用等)を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のサマリーやご利用者様との会話の中での生活歴を聞いたりご家族様からの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様1人1人の1日の暮らしをしっかりと観察してどんな些細な事にも注意し、心身の状態の変化など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画に基づき、月に一回の会議や日頃の職員との会話の中より、ヒントやアイデアを反映し実施している。	日々、利用者1人ひとりの変化を支援経過記録に記入し、2・3カ月に1回チームによるカンファレンスを実施し、現状に合った介護計画作成につなげている。見直しは原則6ヶ月ごとに行っているが急変時(食事減少等)には数ヶ月継続して見直し、改善を図っている。入退院時にも即対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人がの介護記録にその日の変化や気づいた事などなるべく詳しく書く様にして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	手続きの代行、往診以外での受診支援、24時間体制で医療との連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に外出したり、町の行事などの参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人・ご家族様の希望を重視している。また、緊急時も適切な医療を受けられる体制をとっている。	現状、家族の希望により利用者全員が事業所の協力医療機関の内科医に月2回の往診を受けている。眼科医等の専門医には家族が通院支援を行っている。歯科医も月1回往診され、必要に応じて治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日常に観察し、少しでもいつもと様子が違ったらすぐに看護師に報告し、指示を受け早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関に入院体制が整っている為、情報交換や相談する関係はできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応について説明を行い、終末期にはご家族様と話し合い、方針を共有し、チームケアができるよう支援している。	入所時、家族には重度化に関する説明を行っている。重度化した場合は家族や24時間対応の医師と繰り返し相談しながら利用者にとって最善の最期が迎えられるように支援している。適切な看取り対応指針書を整備し、同意書を得ている。施設長は看護師でもあり、既に看取り経験を積み重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて定期的に訓練している。また、施設長が看護師なのですぐ連絡が取れる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と住宅の防災訓練に参加し、連携体制を築いている。	前年は年1回、災害時の避難誘導訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し、消火器やAEDの使い方等を学んでいる。新設したホームなので消防設備等は完備している。消防への自動通報装置には数名の基幹職員宅への自動通報も組み込んでいる。	ホームは高台にあり、水害の心配は低いと思われるが地震や火災(夜間1人体制時も含め)は何時起こるとも限らない。全ての災害時の対応マニュアルを整備し、職員がパニックにならないよう訓練の頻度を増やすと共に災害時の最低限の備蓄も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が自覚を持ちどのような状況であっても本人の人格を尊重し傷付けたりしない言葉かけをする様に対応している。	利用者1人ひとりを尊重し、呼称は～さんで統一している。プライバシーを損ねる言葉掛けや態度に気づいた時は互いに注意し合うようにしている。利用者の希望に沿い、同性介助も支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話でご本人の思いや希望などに耳を傾け ご本人の意思が解りにくい時は複数の投げかけをして自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や状態に合わせ支援している。決して職員側の都合に合わせない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを把握し、本人と一緒にコーディネートを考えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り(たこやきなど)が出来る方にとって頂き、後片付けも手伝って頂いている。	食材購入・献立・調理等全て職員が行っている。食は健康の源と捉え、旬の野菜を中心にした献立で、事業所の菜園や近隣の方から頂いた野菜によってメニュー変更を行い、美味しく食事が出来るように工夫している。遠出の外出時の食事楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人のバイタルチェック、排泄、食事の摂取量を記録しその方に合った食事形態で提供する様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方は、うがいや義歯の洗浄をして頂いている。出来ない方へは介護者が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方で立つ事が可能な方は時間を決めてトイレ介助をし尿意を表した時もトイレ介助を行い習慣づけている。	日中は布パンツ使用者2名、リハパン・パット併用使用者6名で、排泄パターンとリズムを把握し、トイレでの排泄支援をしている。夜間はトイレで排泄可能な人には、声かけ・誘導を行い、オムツ使用者は、時間配分で交換を行い、気持ち良く過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトと果物を提供している。お食事野菜などを多く食べて頂ける様工夫している。毎朝の散歩も欠かさない様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、日にちは決まっていますが、夏場は汗をかくのでご本人の希望があればその都度入浴している。冬場は、入浴日以外でも足浴をし、時には近くの温泉施設へ足浴をする為外出している。	週2回午後が基本となっているが季節や体調に即して、シャワー浴・足浴・清拭等で入浴支援を行っている。年2回の温泉入浴・近隣のスーパー銭湯の足浴・ゆず湯等多様な入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の表情や1日の状態を観察した中で排泄など心配りし、不安事を聞くなどして安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人が服用している薬の理解は、処方箋で確認している。症状の変化がある時は看護師の指示で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の作品作りやカレンダー作り、パズル、トランプなどしたり、DVDを観たり、時にはコーヒーを飲み喫茶店へ行ったり、充実した1日1日を過ごしてもらる様に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	元気な方も車イスの方も毎日散歩している。時には希望を聞いて外出もしている。	ホーム周辺は閑静な住宅街で、道幅が広く交通量も少ないので、日常的に散歩をしている。歩行困難者や体調に難がある場合は玄関前の駐車場で日光浴をし、ストレスの解消や五感刺激を得ている。年2回、和歌山の温泉への遠出は楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、お金を持ちたいと希望のある利用者さんに関してはご自分で所持して頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族様に電話を希望される時は電話出来る様に支援している。また最低月1度は本人の様子を連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでパズルをされたり、季節の花を写生されたり 季節事の作品を展示し季節感を感じてもらえる様にしている。	新築となったホームは居間兼食堂・トイレ・浴室と明るくゆったりと清潔である。テレビ前にはソファを置き、軽いレクリエーションや語らいが出来て、寛げる。壁面に、行事写真・季節感ある折り紙・利用者の絵を飾り、和やかな空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔の音楽を聴いたり、DVDを観たり、利用者様同士楽しく会話をされたり、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花、カレンダーなど本人好みの物をきれいに飾り、少しでも居心地を良くする様、工夫している。	ベッドは施設の備え付けで、ダンス・馴染みの物・写真が持ち込まれ、本人が落ち着いて暮らせる、居心地の良い居室となるように支援している。床は好みに畳敷きにしたり、手作り作品を飾ってあたたかさや本人の好みを、取り入れる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りは常にしっかり行い、ご自分で出来る事は出来るだけして頂けるように努めている。		